

太田市区長会研修会 ～地域社会における男女共同参画～

令和4年6月29日（水）に藪塚本町文化ホール（カルトピア）にて、区長・区長代理を対象に地域社会における男女共同参画と題し、男女共同参画週間（6月23日～29日）に研修会を開催しました。

令和4年度は、太田市の区長・区長代理480名のうち、女性の区長さんは3名、区長代理さんは8名です。来年の改選期に向けて、より多くの女性が地域コミュニティ活動に役員として参画し、さらに地域の活性化を促すとともに、担い手不足の解消も目指して今回の研修会を開催しました。講師には、太田市男女共同参画推進協議会の会長でもあります坂本祐子先生にご講演をいただきました。概要は次の通りです。

世界経済フォーラムが「経済活動への参加と機会」「政治への参加」「教育」「健康と生存率」の4分野の計14項目で、男女平等の度合いを指数化した、ジェンダーギャップ指数というものを出している、順位が良いほどギャップが無いという指数ですが、世界156カ国のうち日本は120位（2020年）です。また、都道府県別「自治会長に占める女性の割合」において、群馬県は0.9%で全国唯一の1%未満の最下位です。地域社会や各種審議会などにおいて全体に占める女性の割合が30%を超えると「女性の意見」「女性の見方」と捉えられなくなり、女性の中にある多様性が意思決定に反映され、多様なニーズの取り込みと組織文化の発展へと繋がること。「女性の方が家事や育児が得意だ」、「男性の方がリーダーシップがある」といった、男女格差などのイメージを持つステレオタイプ（固定概念）が人間の行動に強力な影響を及ぼすことを学びました。性別にかかわらず、「協力し合って仕事も家庭も大事にする」といった考え方も受け入れられる柔軟な社会が、男女共同参画社会です。地域社会においても、「組織のリーダーは男性だ」、「湯茶の準備は女性だ」など、性別によって役割を固定せず、得意なこと、不得意なことがあっても、それがかけがえのない個性として捉えられ、一人ひとりが自分らしく生きられる地域社会を目指しましょう。

終了後に回収したアンケートを見てみると、「女性の意見を反映させ、活躍する場を創りたい」、「固定概念を無くしていきたい」という意見が多くみられました。今すぐ地域社会を変えていくことは困難ですが、些細なことからはじめ、それぞれの地区で男女共同参画について考えていただければと思います。

